

いわき湯本病院 草野礼儀・兼子正巳(運転手/総務課)

功 績 広い診療圏の中、病院送迎車運転手として毎日およそ150kmを走行し、高齢通院患者さんの通院の手足となって在宅医療をサポートし地域の方々に大変感謝されている。とくに、4年前からの通所リハ開始に伴って、リハ患者さんのスケジュールに合わせた通院支援が加わり、複雑なスケジュールの中、車椅子通院、歩行困難状態の方々の送迎に、事故もなく2台のマイクロバスで日々活躍している功績

推 薦 者 大松澤 学(総務係長)

推 薦 理 由 山間部で交通手段のない広い地域を抱える診療圏の中で、地域包括医療を進めるための患者送迎バス運転を続け、特に最近4年は通所リハサービスの開始に伴って送迎のパターンが複雑になり、日々の緻密な計画の中で1日もかけることなく送迎を行っている。

地域の心のオアシスをモットーとし、地域包括医療を掲げる当院の市民との接点最前線で通院の手足となることで、通院する方々から大変よろこばれており、是非とも理事長賞として推薦したい。

内 容

被推薦者は共に病院マイクロバスの運転手である。

いわき市は平成30年現在全国15番目に面積の広い市であり、人口は約34万人、高齢化率は30.5%である。当院の役割は地域包括医療と療養医療であるが、地域の皆さんの認識も定着し、大変高齢者の多い病院でもある。

山間地域も多い広い市域に分散する高齢者は独居、高齢者家族、通院介助者がいないなどの理由で、受診が思うようにできない環境にある。そこで、当院も通院患者送迎バスの運行を行っており、地域の方々に利用していただいている。送迎バスの運行状況を見ると、これまでは主として外来通院患者さんが利用者で、2台のマイクロバスが地域を分担し、巡回集合場所を決めて時間表で利用していただく方式で運用されていた。病院からの距離の最長は約20km、一日走行距離は150km前後になっていた。

4年前、通所リハを開始し、この方々も必要に応じ送迎バスで通院していただくことになった。リハ利用者は歩行も困難なことが多く、自宅までの送迎を行うこととし運行を開始した。当初は4人の利用者であったが、最近では総数40人ほどになり、送迎バス利用はこのうち約60%になる。

当院の通所リハでは患者さんを9時スタートと10時45分スタートの2組に分け、1組8人で午前中にケアを進めている。送迎支援では、それぞれのリハ患者さんに所定の開始時間までに病院に来院していただき、約1時間後の終了時には自宅に届ける作業が患者さんごとに発生する。搬送患者数はひと組6人前後で居住地域が山間部に広く分散し、限られた時間に複雑に走り回って送り届けるという大変複雑なスケジュールになる。2台のバスは、通常の外来患者さん送迎の巡回に加え、通所リハ患者さんの送迎約10数名分を日々のスケジュールを作成し走行するという大変密で複雑な作業になる。被推薦者らは事前連絡票に基づき送迎順序を策定、遅滞なく日々の送迎を事故なくスムーズに行っており、地域の方々からも大変感謝され、病院の地域への貢献に多大な力になっている。